

一次原型石膏型取



型取りの準備としてヘッドやボディに開けた「受け」部分の穴を埋めておきます。後から切り取りやすいように若干の段差を残しておくといいでしょう。



型を分割するためのライン（パーティングライン）をだします。
写真のように腕を大きく伸ばし、原型の全体が見える（陰になる部分がない）位置に持って、そのときに見える輪郭をヘラでたどって跡をつけていきます。



ヘラ跡に沿ってラインを引いていきます。
できるだけ連続した滑らかなラインにしてください。



パーティングラインに付ける型を分割するための「カベ」を準備します。
まず油土をひも状にし、のし棒で厚みが12~13ミリ程度に伸ばします。
これをパレットナイフ等で3~4ミリ間隔で薄くカットします。
切った何枚かは補強用の「裏打ち」として使用するためにさらに半分切って細長くしておきます。



細くした「裏打ち」をパーティングラインからカベの厚み分(3~4ミリ)下がった位置に付けていきます。



「裏打ち」を付けたら「壁」のふちをラインに合わせてのせていきます。このとき「裏打ち」を軽くつぶすようにすると「カベ」が安定します。



肩や首の付け根などくぼんだカーブになる箇所は多少ルーズに壁を回します。これは石膏を掛ける際に谷間からのこぼれ出しを防ぐ意味があります。



手足などの小さなパーツは全体を油土に埋め込むようにして壁を作ります。



これで石膏を掛ける準備ができました。



盛り上げ法(ハンドレイアップ)による石膏掛けに必要な用具です。
パレットナイフとスプーン、写真右に見えるのは石膏用ラバーボウルです



今回使用する石膏はサンエス石膏陶磁器型材用石膏特級緑です。



作業の初めに必要な石膏の量を概算します。

一般的な焼石膏の特級やA級の場合、手のひらで覆える部分に必要な溶いた状態の石膏(スラリー)は女性で約180cc、男性で210cc位でしょう。盛り上げ法の場合は特に石膏の重量は測りませんので、水の量が肝心です。

必要な水の量はスラリーの約三分の二ですので、女性は120cc、男性は140ccの水が必要になります。(少し難しいですね)

型取るパーツに手を当てて、手のひらいくつ分ほどになるかで水の量を決めてください。
(例 女性で手のひらひとつ半必要なら水の量は180 c c という事です)



計量した水に石膏を振り入れていきます。
振り入れには余り時間を掛けず、1分程度で入れてください。
写真4枚目のように水面と石膏がほぼ同位になったら正しい混水量となります。
容器は傾けずに石膏に水が自然に含浸するのを待ちます。
振り入れが終わり水が含浸したら手早くスプーンで混練(攪拌)します。



石膏が均一になったら柔らかいうちに薄く一皮掛けます。
これは形の細部に行渡らせる作業なので厚く掛ける必要はありませんナイフで壁の
端まで薄く延ばしてください。



厚味を付けるために石膏がクリーム状になるまでしばらく待ちます。

写真1のように石膏表面が滑らかな状態で盛り付けると地崩れを起こしますので、2のように持ち上げたときに深い縮緬状の亀裂が入るまで待ちましょう。

石膏が丁度良い硬さになったら型の上に盛り上げていきます。必要な分量を盛り上げ、ナイフで空気を巻き込まないように下に下ろしていきます。

壁のへりで擦り切りにして形を整えます。



使用した容器類はまだ石膏が固くならないうちに処置したほうが良いです。ラバー(ゴム製)ボウルの場合は固めてから処理することもできます。

残った石膏はそのまま水道に流すと詰まりを起こすので、スポンジに含ませたくらいの少量の水で溶かし、新聞紙などを敷いたコーナーに廃棄します。

その後キッチンペーパーなどで残りを取り除いて下さい。固まった石膏は不燃ごみとして処理します。



石膏が固まったらカベと裏打ちの油土を取り除きます。
壁に残った石膏はきれいに取り除きましょう。油土は何度でも使えます



写真1枚目は油土を取り除いた状態です。今度は石膏がカベの役割をします。
このまま石膏を掛けると石膏同士がくっついてしまうので離型剤を壁に塗ります。
今回はリンレイワックスブルーを使用しました。薄く一塗りします



先程と同じ要領で石膏を掛けます。写真のように手に持つと作業が楽になります。



裏面の硬化が終わったら、合わせ目にパレットナイフ(カッターナイフは歯が折れることがあるので使用しない)などを差し込んで離型します。

型の内側に残った油土は同じ油土で抑えると取れます。多少の汚れが残っても次の作業の支障にはなりません。これで一次原型の石膏型取りは終了です。

一次原型石膏型取